

---

# イジメ

刹那

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

イジメ

### 【Nコード】

N 8 4 1 3 M

### 【作者名】

刹那

### 【あらすじ】

イジメをしている・されている人へ

## 第1回（前書き）

ただなんとなくイジメをやっている人  
一番弱いのはあなたかもしれません？

この話をよんで少しでも考えを改めてくださる事を願っています。

## 第1回

なんですか？

なんであなた達はそんなひどい事ができるのですか？

あなた達は私の事を化け物だと言いましたね・・

私からするとあなた達の方が化け物ですよ？

平気でイジメなんかしてるんですもの

どんなにあなた達が集団でイジメてきても

私は負けません

絶対に負けません。

イジメをするなんて最低ですね。

いや、可哀想ですね

だってそうでしょう？

誰かをいじめる事によって繋がっているなんて・・・

そんな事で成り立っている友情なんて・・・

馬鹿げていますね

本当に可哀想です。

私がそんなあなた達に負ける訳ないんですよ

え？そんな事言っても私にはあなた達をどうする事も出来ない？

そりゃそうですよ。

集団なんですよ？そっちは

心はあなた達よりも弱いかもしれない。

それでも、負ける気はしません。

矛盾してる？

そうですね。

だけど、それが私です。

## 第1回（後書き）

誤字。脱字があつたらお願いします。

## 第2回

あなた達が私をいじめて来るのはこの顔の所為ですか？

私だって好きでこの顔に産まれて来たんじゃないのに

いつの間にか自分の顔を見られるのが怖くなりました。

なるべく目立たない様に喋らず俯いているようになりました。

休み時間には教室から出て行き

お弁当を食べる時はトイレの中で1人で食べるようになりました。

私が放課後すぐに教室を出て帰ろうとしたら

靴箱に入っていた靴が消えていました

それだけではありません。

私の机に酷い落書きをしたり

ゴミを投げつけてきたり

掃除の時にわざと汚い水をかけたり

暴力を振ってきたり

私はひたすら耐えます

イジメられているなんて恥ずかしくて

誰にも相談なんかできません

お母さんやお父さんに心配かけたくないし

なにより、折角私を産んでくれたお母さんに申し訳ないです。

でも。

私は信じています。

いつか、この真っ暗な暗闇から抜け出せると

人生こんなに酷い事ばかりじゃないと

心の底から笑える日がくると

信じています。

だから。

精一杯生きています

どんなに皆が私の事を、私の存在を否定しようと

私は生き続けます。





### 第3回 前編（前書き）

長くなりそうなので前編と後編に分けさせて頂きました

### 第3回 前編

私はよく人見知りをします

小学校の頃は皆私の事を理解してくれていました

目つきが悪いけど本当は皆と仲良くしたい。

ただ人見知りで口数が少ないだけで

慣れてきたら積極的に話したり笑ったりする事を。

なので私は小学校生活は楽しめました

友達が大好きでした。勿論先生も大好きでした。

いや。

今でもあの暖かな人たちが大好きです。

この頃の私は人を疑ったり、嫌いに思うことなんて

まったくありませんでした。

ところが。

中学校にあがって生活・人間関係が一変にしました

高校の事を考えてちょっと遠いけど中学受験をしたのです

あの大好きな友達とも別れてしまいました。

私の他に九人この学校に受かりました

新しい友達できるかな

期待を胸に膨らませていました

が。

私はまた人見知りをしてしまったのです

当然友達は出来ません

委員会とかの仕事でアピールしてみました

それでも友達は出来ません

頑張ってテストでいい点を取ってみました

むしろ嫌われました

でも、先生には信頼されています

私は先生の信頼なんかどうでもいいです

ただ、友達が欲しいだけなんです

心の中で何度も叫びました

でも友達は出来ません

私はある事に気付きました

クラスの人とともに話した事がない事に

いつの間にか周りの人たちはグループを作っていた事に

この頃6月でした

このままではいけないと感じた私は

部活に入る事にしました

運動は苦手、音楽は無理。

残された選択肢の美術部に入りました

そこの部員は皆暖かな人でした

同級生は、4人いました

その4人とは友達になる事ができました

初めて中学校で出来た友達です

### 第3回 前編（後書き）

誤字・脱字等があればお願いします

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8413m/>

---

イジメ

2010年10月16日03時18分発行